

大学の世界展開力強化プログラム
ASEAN 諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成

神戸大学大学院保健学研究科 清水里佳

派遣期間; 2013/10/2~2013/12/31

派遣先; アイルランガ大学熱帯病研究所

大学の世界展開力強化事業により、アイルランガ大学熱帯病研究所に派遣され、清水一史特務教授の元でインフルエンザウイルスの研究に従事しました。インドネシア人研究者と一緒に研究をすることで英語能力、そして向上心の高さに感銘を受けました。また途上国ならではの上昇志向は良い刺激となり、より一層勉学に励もうと思いました。

今回の派遣にあたり、上記の成果を得られたことは世界展開力強化事業運営委員会の先生方のおかげと感謝しております。

今後の学生へのアドバイスとしては、海外に興味があるものの語学力に不安があるからといって留学をあきらめないでほしいです。語学力は高いことには越したことはありませんが、伝えようとする姿勢や好奇心を持って何にでも積極的に取り組もうとする姿勢を心掛けることで、周囲の人は手を貸してくれますし、自分自身の成長にもつながります。私も留学前は語学力に自信がなく 3 ヶ月間海外で生活していけるか不安でいっぱいでした。しかし、周囲の人の助けや、何事も楽しもうという思いを大切にすることで非常に有意義な3 ヶ月間を過ごすことができました。海外での生活は日本とは異なることが多く苦勞することもありましたが、そこから多くのことを学びましたし、日本での生活、将来について見つめ直す機会ともなりました。少しでも海外に興味があるのなら是非挑戦して頂きたいです。



インフルエンザグループ

2013年10月、私はインドネシア国、第二の都市であるスラバヤに到着した。今日から「大学の世界展開力強化事業」により、3か月間の研修を受けることになっている。元来、海外で生活してみたい、途上国の現状を見てみたいと考えていた私にとって、この事業は願ってもない機会であり、応募をさせていただいた。この3か月の研修により、異文化交流、途上国での生活体験など多くのことを経験し、何か今後の自分の人生に役立てるものが得られればと期待に胸を膨らませていた。

しかしながら、その期待は寮に着いた瞬間に不安へと変わった。狭い部屋、お湯の出ない、頻繁に断水するシャワー、水洗ではないトイレ、そして早朝に聞こえてくるイスラム教特有のコーランなど、日本での今までの生活とは全く異なっていた。当然、クーラー、冷蔵庫などの家電もなく、キッチンも共同のものが一つあるだけである。途上国での生活がある程度は覚悟していたものの、「本当にここで3か月間も生活できるのか」という不安に襲われながら、初日の床に着いた。

翌日、研修をお世話になるアイルランガ大学熱帯病研究所に到着した。アイルランガ大学熱帯病研究所はインドネシア国 Center of Excellence に選出され、医学、生物学ではインドネシア屈指の研究機関である。ここには、神戸大学の新興再興感染症国際共同研究拠点があり、3名の日本人研究者が常駐し感染症研究に従事している。そのうちの一人である清水一史特務教授の元で、3か月間のインフルエンザウイルス研究が始まった。今回お世話になった清水一史教授は、40年以上インフルエンザ研究に従事し、日本での職を辞してまでインドネシアに赴任されてきた。鳥インフルエンザでの死者が最も多く、そして季節性インフルエンザ流行の発生源となっている可能性のあるインドネシアで、インフルエンザ研究を行うためである。今までの恵まれた研究環境捨てて、途上国で研究をし、インドネシア国民ひいては日本国民の健康に貢献するという姿勢に非常に感銘を受けた。



アイルランガ大学 熱帯病研究所



アイルランガ大学 女子寮

今まで細菌の研究を行ってきた私にとって、ウイルス研究は新しいことの連続であり新鮮なものであった。季節性インフルエンザウイルスの分離、遺伝子解析、そして H5N1 鳥インフルエンザウイルスの監視など、主に疫学的な研究に従事させていただいた。鳥インフルエンザウイルスという社会的に影響の大きいウイルスを扱うことは大きな責任が伴い、身の引き締まる思いであった。研究室での分子疫学的解析だけでなく、フィールドワークにも参加した。渡り鳥が高病原性鳥インフルエンザの伝播や拡散に関与している可能性は大きいと考えられていることから、渡り鳥の生息地の環境調査を実施したり、鳥インフルエンザウイルスのヒト感染例発症地域のウエットマーケット、商業用鳥マーケット、および民家などをまわるサンプル採集にも同行した。いずれも日本では目にすることのない光景であった。ウエットマーケットや商業用鳥マーケットは衛生環境の良くない部分も多々あったことから、多くの方が鳥インフルエンザに感染する危険に曝されていることを実際に目で見て感じることで今回の留学の目的の一つであった留学で得た知識や経験を将来、多くの新興国の感染症や衛生状況問題などの改善に役立てたいという思いが一層強くなった。

インフルエンザグループには4名のインドネシア人研究者が所属している。主にはこの4人と研究、生活を共にした。インドネシア人研究者とともに行動することで最も感銘を受けたのが英語能力の高さである。このアイルランガ大学熱帯病研究所にいる研究者は、ほとんどが大学を卒業したての20歳代で、私と比べてもそれほど年齢は変わらない。しかし、その研究者全てが英語を流暢に話し、研究のディスカッションを行う。これは日本にいた時には考えられないことであった。この研究者たちと共に研究、生活することは本当に刺激になったと同時に、日本の学生の英語力は低いとは聞いていたが本当に低かったのであると実感した。



渡り鳥(ペリカン)の生息地



鳥の飼育場

英語以外に驚かされたのは、その向上心の強さである。寮や研究所でいろいろなインドネシア人と話してみて、海外で勉強したいと考えている人が非常に多いことに驚いた。中でも、私が一番仲良くなったインドネシア人研究者は、常日頃から「日本で勉強したい」と話し、そのために夜遅くまで研究をしたのちに、日本語の授業を受けている。なんでも、アメリカやヨーロッパで勉強するよりも、アジアのリーダーである日本で学ぶことが、インドネシアの発展に役立つと考えているようだ。私が日本にいた時にはこのような考え、そして目的を持ち行動をしている人には出会ったことはなかった。インドネシアという発展途上国のエネルギーを感じた。これらのことを踏まえて、やはりもっと勉強をしなければならぬと痛感した。

休みの日にはインドネシア人と一緒に多くの場所に遊びに行った。いわゆる観光地に行くのではなく、ローカルな普通のインドネシア人と同様の休日を過ごすことができた。地元の若者がよく行くワルン(大衆食堂)で夜遅くまで語り合い、あるときは友人の結婚式に参加するためにジョグジャカルタを訪れた。

研究者以外のインドネシア人と接するうちに、外国人を受け入れ、どこでも歓迎してくれるということに気付いた。これも日本ではあまり考えられない。一般的に陽気な国民性から、知っている英語や日本語を使ってみな積極的に話かけてきてくれ、またこちらの拙い英語やインドネシア語もしっかりと受け止めてくれた。また考えていた以上に日本の文化に興味を持ち、時には日本人の若者以上に日本の文化に対する知識があったことに驚いた。友人に、日本人なのに何故日本の伝統文化について知らないことが多いのかと言われたことが非常に印象に残っている。インドネシアでは伝統舞踊や文化などを非常に大切にしており、いつも友人たちは様々なことを教えてくれた。彼らと互いの国の文化について語り合うことで、自身の日本の文化に対する知識不足を痛感した一方で、インドネシア人目線で日本の文化を考えることは非常に興味深く、今後は日本の文化について日本人として学んでいきたい。



結婚式 ジョグジャカルタにて



Warung (大衆食堂)

ここまで日本が劣っている点ばかりを書いてきたが、もちろんそのような点ばかりではない。そしてここまで述べてきたインドネシアの素晴らしい点は当然すべての人にあてはまるわけではない。一般的にインドネシア人は怠惰で時間を守らない、と聞いていたがその一面を垣間見ることも多々あった。その点においては、改めて日本の良さを再認識した。また、この熱帯病研究所はインドネシア内で1、2を争う研究機関ではあるが、インドネシア全体で考えると研究環境が整っていないところが多い。純粋に研究をするというのであればもちろん日本で研究をした方が捗り、日本で学生生活を送ることができる良さを感じる。

振り返ってみると、この3か月の研修あっという間に終わってしまい、初日にあった不安はすぐになくなったことに気付いた。このように楽しく過ごせたのはやはり、多くの友達ができただけが最も重要な要因であると思う。国や考え方、文化が異なってもそれは人との付き合いの障害になるものではなく、逆に魅力的にさえ思えた。3か月たち、みんなと仲良くなりこれから楽しくなるという時期に帰らなければならないのは寂しく、もう少し長く滞在できればと感じた。総じて考えれば、人とのつながりが一番生きていくうえで大切なものだと考えさせられた。

近年、日本人学生は内向き志向で海外に出ることは少なく、そのためにこの世界展開力強化事業が採択されたと聞いている。しかしそれは逆を返せば、日本は海外に行かなくても高度な教育を受けることができる、ということである。

このプログラムのおかげで、海外との違い、差を認識し、そして日本の利点や欠点を再認識することができた。この貴重な経験を今後の人生に役立て、将来インドネシアをはじめとした新興国の発展に貢献したい。



ITD の先生方と



ITD 主催の講演会にて